

# 著作文化論

## *Discuss of Modern Culture*

	1 学期	木曜日	5・6 時限	講義室：7A204	
担当教員	黒古一夫	研究室	503	ワイス77-	木曜日 3・4 時限
科目の概要	<p>明治維新によるこの国の近代化は、近代国家としての政治や経済の仕組みを変えるとともに、到来した「市民（市民平等）社会」に相応しい文化（精神風土）を形成していった。そして、その「文化」形成の中心を担ったのが、新聞や雑誌、単行本の大量発行・読者の拡大といった前時代までには見られなかった現象であった。本授業では、それら近代における「出版」について、欧米文明・文化の移入を視野に入れながら、教育制度、社会運動（自由民権運動）、キリスト教との関係、法制度、などとの関係で考え、なおかつ伝統文化が近代社会においてどのように対応していったか、等についても考える。</p> <p>授業の形式は「ゼミ」方式で、担当した項目の学生による報告を中心に、討論及び教師の講義によって構成される。</p>				
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「近代社会」概論（教師による）</li> <li>2. 明治期の新聞</li> <li>3. 雑誌の刊行</li> <li>4. 翻訳文化（文学）について</li> <li>5. キリスト教の影響</li> <li>6. 教育制度</li> <li>7. 自由民権運動</li> <li>8. 伝統文化との関係</li> <li>9. 法制度</li> <li>10. まとめの討論</li> </ol> <p>（順不同、学生と相談して順番は決める）</p>				
達成目標	<p>この授業を受ける最大のメリットは、中学や高校（あるいは大学）で身に付けた「歴史」の知識とは別な、「文化」というものが生き物であり、人々の生活と共にあったということを知ることができ、かつそのような「文化」の中心に出版文化（著作文化）が存在したことを、具体的な「事実」を通して知ることができることである。</p> <p>また、それらが「図書館」の存在と歴史に深く関係していることも知りことになると思われる。</p> <p>「常識的」かつ「ありきたり」の知識（概念）が崩される可能性があり、そうなったらまた新しい視点が生まれてくるのではないかと思う。</p>				
評価の方法	レポート（報告用1回、最終評価用1回）による。				
教科書または参考書	特になし。いろいろ調べてもらう。				
テレビ会議システムの利用	無				
その他					